

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 湯川中学校 学級数 通常10 特支4

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

進んで学び、心豊かに自己表現する生徒

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

道教委が目標として掲げた平成26年度の全国調査までに「全国平均以上」にすることを達成することは学校現場の課題となり、学校評価においても地域や保護者からの学力向上への要望とともに、応えるための具体策を講じる必要になった。そのため、本校は学力向上を実現するための教育活動の改善や充実をはかるための取組として、教科における指導力の向上をいっそう進めることに努めている。

2 取組の位置付け

教務と研究が中心となり、教育課程の改善や校内研修の充実に向けて取り組んでいる。

3 取組の方法

- ① 学習指導要領完全実施となり、教育課程の見直しを行っている。基準教育課程を基に年間指導計画を作成し、改善を図っている。また、評価評定についても見直しを図り、子どもや保護者から信頼される評価評定を目指している。
- ② 学習習慣の確立を目指し、家庭学習ノートの推奨、教育相談を通じた学習相談など個に応じたきめ細かい学習指導の実施。
- ③ 長期休業中に各学年で学習会を実施し、学習機会を生徒に与えている。このことにより、生徒の学習環境や習熟度に応じた補充的な学習ができています。
- ④ ブロック制による校内研修を実施し、他教科との連携を図りながら、指導の改善を図っている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・ 基準教育課程を基に年間指導計画の見直しの実施
(成果) → 計画的に学習計画を立てることで、学習指導要領に基づく、十分な学習活動が実施できている。
- ・ 家庭学習における、個に応じたきめ細かい学習指導の実施
(成果) → 家庭学習の習慣化を目指し、家庭学習ノートを提出させ、朱書きで学習方法についてのアドバイスを行い、勉強方法の工夫と意欲付けを行った。その結果、学習習慣が身に付き、学力向上につながった生徒が見られた。
- ・ 長期休業中の学習会を実施。
(成果) → 希望制で各学年実施した結果、目標を持って学習に臨む生徒が多くなり自主的な雰囲気の中で学習会が実施できるようになった。しかし、2～3日間の実施となるので、特効薬的な期待を抱いている生徒や保護者との間に考え方の違いが見られた。
- ・ 他教科との連携をもった校内研修の実施
(成果) → 各教科間で研究主題に関わる共通課題をもって授業作りを行った結果、目指す生徒像がはっきりし、授業だけではなく学校生活全般の活動を通して、生徒に対応するようになった。

○ 教育課程検証の方法

- ・ 12月に、内部評価を実施、その中で学習指導に関わる評価を行った。その結果AB評価のみであった。また、教育課程に関する記述意見がなく、順調に学習計画が進んでいるようである。